

# 転校生なギャルJKはダークエルフ！？ 3章幕間

癒し庵もち猫 クアトロ

## 9-2:約束

と言う訳で、明日もナナリーの家へ行く事になった。

正確には待ち合わせするだけだが。

しかし、何でこうもグイグイ来るんだ。

ナナリーは調査のため、と言っているが、本当にそうなのだろうか？

僕の秘密？

そんな隙、見せるはずがない。

何せバレたら、これまでの計画が水泡に帰す。

それだけは避けたい。

だが僕を調べたいと言うなら、好きなだけ調べればいい。

どうせ見つかりっこない。

そう思っていた。

“あの時までは”

## 9-3:明日の予定

帰宅後、僕はボーっと考え事をしていた。

明日のデートについてだ。

彼女の勢いにつられて、ついOKを出してしまった。

どうやら観てみたい映画があるらしい。

と言うか、映画自体初めてだと言っていた。

あの巨大なスクリーンで動く映像を観たら、また魔法だーとか言い出すだろうな。

そう思うと微笑ましくも思える。

明日の朝9時、彼女の家の前で待ち合わせ。

そこから徒歩で映画館へ。

上映時間は予め調べておいた。

ちょうど着く頃に入場が始まる予定だ。

抜かりはない。

上映を逃して、彼女に退屈な思いをさせてはいけない。

そうこう考えている内に、強烈な眠気に襲われた。

ウトウトとして舟を漕ぎ、机で頭を打ちそうになる。

いけない、ベッドに行かなくては。

朦朧とする意識の中、僕は何とかベッドまで辿り着く。

そのまま倒れ込む様にベッドに横たわり、天を仰いだ。

彼女の部屋に長く居たせいだろうか。

独特の甘い香りが服に残っている。

いい香りだ。

彼女に膝枕をしてもらえば、この匂いを嗅ぎ放題だ。

だから今日も耳かき棒を前もって用意していた。

引かれてしまったが、それくらいどうという事はない。

興味は惹けたはずだ。

何でこんなに必死になっているんだろう。

駄目だ。

思考がおぼつかない。

少し早いが、今日はもう寝よう。

明日のデートに備え、僕は眠りについた。